

平成 20 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	揺らぎが機能を定める生命分子の科学
領域代表者名	寺嶋 正秀（京都大学・大学院理学研究科・教授）
研究期間	平成 20 年度～24 年度
【科学研究費補助金審査部会における所見】 本研究領域は、生体分子の機能発現における熱揺らぎの重要性に注目し、生体系における揺らぎの観察、揺らぎの制御、揺らぎと機能の相関の解明を目指すものである。その着眼点は独創的であり、生体反応の重要課題に正面から取り組む挑戦的な研究提案であることから、領域設定の必要性が高く認められる。提案された研究目的は極めて妥当であり、それを達成するための研究計画および研究方法も適切である。個々の計画研究が大きな成果をあげることが予想され、領域全体の連携がうまく図られれば従前にはない新しい学術領域が形成されるものと期待できる。本研究領域の推進に当たっては、揺らぎの時空間スケールと実際の現象、機能発現の相関について十分な検討がなされるとともに、熱力学的解釈の妥当性を明確にすることが望ましい。本領域代表者のリーダーシップおよびマネジメント能力は領域推進に際し十分であり、組織された計画研究の構成も適切であると思われる。本領域公募研究の設定に当たっては、若手研究者の人材育成に配慮しながら、より広範な分野から構成することが期待される。研究期間および研究経費についてもおおむね問題はないが、一部の計画研究については研究計画調書に記載された内容から経費の大幅な減額が妥当であるとの意見が少なからずあった。	